

パネルディスカッション

「これからの物流について」



コーディネーター：織田政夫

これから進めてまいります、パネルディスカッションのコーディネーターの役割をおおせつかりました流通経済大学の織田です。この後のディスカッションを盛り多しものにし、その成果を最大限引き出したいというふうに念じております。パネリストの皆さん、それからフロアーの方にもよろしくご協力お願い申し上げます。

パネルディスカッションの狙いについて

パネリストの皆さんをご紹介する前に、本日のディスカッションのテーマとして掲げております「これからの物流について」という表題を選びました私どもの狙いというものについて一言私のほうから説明させていただきます。

ご承知のように今世紀、最後の四半世紀に我々は産業経済、あるいは国民経済において多大な変化を体験してまいりました。この変化をもたらした最大の要因は、ハイペースな技術革新、それから経済社会の工業化でした。この技術革新と工業化は、産業経済、国民生活のいわば発展の要件でありました。

そして、今また我々が目の前にしているIT革命、これはインターネット革命という第二段階に入っております。おそらく21世紀の初頭には、過去四半世紀に我々が経験した以上の激しい変化が産業経済のみならず、我々国民一般の社会生活にももたらされるというふうに思っております。

すなわち情報通信ネットワークは、やがて経済社会の基盤となって、産業活動の効率化と国民生活の質的向上に果たす役割は、極めて大であるというふうに考えます。また、その中にありまして、新しい需要と産業分野を作り出すイノベーションを完備することが一般に期待されています。

まさに今日の企業は、産業の情報化あるいは情報の産業化、そして国際化、ボーダーレス、さらに環境との共生化、そういうふうな色々複雑な並びの中に置かれている。多くの変革が我々に迫られています。

この情報通信ネットワークの進展は、おそらく物の流れを活発化します。一方、世界

の人口のハイペースな拡大を見ますと、経済の後進地域の工業化の進展によりまして、ご承知のように貿易経済活動は一貫して拡大成長し続けています。したがって、物流は産業経済ならびに国民経済を支えるニューインフラストラクチャーとしての重要性をますます高めております。

それゆえに物流活動に対する社会の関心、これは極めて高いものがあります。しかし、もっとも高度化した物流の形態として今、目指されているサプライチェーンあるいはロジスティクスマネジメントといったものに不可欠なIT、ネットワークの活用の面でこの最先端技術を駆使できる人材の不足が叫ばれています。

また、物流の分野におきましても、サプライチェーンを構成する各独立企業にわたる全体的な物の動きを立体的に捉える、そして、これを総合的に調整し管理する、いわゆる企業間統合システムの構築、あるいはそれを押し進めて、それを管理するスペシャリストの不足もまた指摘されているところでございます。

一方、技術革新、いわゆる革新技術の開発と導入、そしてこれによる生産性向上という圧力は、この肝要の部分であります外部経済の問題を、どうしても軽視しがちで、その解決が見送られがちでございます。現に環境問題の多くが20世紀の経済発展の、いわば負の遺産といたしまして21世紀の解決に委ねられようとしております。

しかし、我々の住む今日の経済社会では、環境を無視した企業活動は許されなくなっています。環境に悪影響を与えるような産業活動は、規制されるだけでなく、時には社会から厳しい制裁を受けることとなります。

この環境問題を解決に導く、物流産業が果たすべき役割は、きわめて多いというふうと考えております。そこで我々のこのディスカッションでは、これからの物流活動に、最も大きな影響を及ぼすと思われるIT革命、それから人材教育、それに環境問題、この3つをキーワードにいたしまして、これらの3つの重要なキーワード、これらの動きや課題の解決を迫られながら、これからの物流活動は、現在どのような方向に向かって進展している状況にあるのか、この点について、パネルディスカッションでは大きなウエイトを置いております。

もう一度申しますと、物流活動はこの3つに影響されながら、またその解決を迫られる中で、現在どのような方向に向かって、またどのような進展状況にあるのか、そこらへんについてパネリストの皆さんに忌憚のないご意見と討議をしていただいて、いわゆる21世紀の物流活動の姿なり、有り様を探っていきたいというのが、このパネルディスカッションの狙いでございます。

今日は、そういうディスカッションをしていただくのにふさわしい物流、IT、環境問題等の分野において活躍されております著名な方々をパネリストとしてお迎えしてお

ります。

パネリストの紹介

それではご出席いただいている4人のパネリストの方々をご紹介します。私のお隣から順にご紹介いたします。

石田先生、石田晴久先生をご紹介します。先生の略歴につきましては、お手元のパンフレットの7ページに記載されています。先生は、1997年に東京大学を定年退官されて東大名誉教授になられると同時に、多摩美術大学の教授になられ現在に至っております。

続いて、吉野源太郎さんをご紹介します。吉野さんの略歴につきましても、同じくパンフレットの8ページに記載されています。吉野さんは、長らく日本経済新聞社にご勤務されていて、1995年から日本経済新聞社の論説委員をされています。

続いて、井手高吉さんをご紹介します。井手さんは、日本通運株式会社に入社されて以来、米国と国内の営業の職務を続けた後、1999年から日本通運株式会社取締役になられまして、現在、情報システム部、ロジスティクス部、それに営業部を担当されています。井手高吉さんの略歴につきましては、17ページに記載されています。

それから松林正一郎さんをご紹介します。三井物産食料本部のリテール事業室長でございます。

以上、4人のパネリストの方をご紹介します。これからそれぞれのパネリストの方に10分ないし、15分の時間内で本日のディスカッションのテーマについて、基調報告をしていただきます。

そして、基調報告が終わった後、パネルディスカッションに入りたいと思います。なお、パネルディスカッションが終わった時点でフロアからのご質問をいただく時間を設けております。そのための質問票が皆さんのお手元に配られていると思います。その質問票は、4人のパネリストの基調報告が終わった時点で回収させていただきますので、それまでにご記入しておいていただきたいと思います。

それでは石田先生から基調報告をよろしく願います。